

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培されていたものが逸出し侵入しました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。在来種との競合、生態系への影響、通水障害などの影響が確認されています。家の池や水槽などで栽培していた場合は、排水路などにホテイアオイや水が流れないようにしましょう。流れ出しを防ぐことができない場合は、栽培しないようにしましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	ミズアオイ科	
種名(亜種名)	ホテイアオイ	
学名	<i>Eichhornia crassipes</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南米(アルゼンチン周辺)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	関東甲信越～九州・琉球列島、八丈島(伊豆諸島) 九州・四国では特に多い	
生態学的特性		
生態	匍匐(ほふく)する茎を伸ばし、子株を次々につくり大群生する。	
形態	高さ10～80cmの常緑多年生の浮遊性植物。 葉は卵心形～円心形。葉柄はふくらんで浮き袋になる。水中に垂れる根は黒紫色で長く、根毛が良く発達する。花は淡紫色。花後、種子ができない場所も多い。	
繁殖形態	花期は6～11月。 親株から茎を伸ばし、子株を次々につくり、大群生する。	
生息環境	暖地の湖沼、溜池、河川、水路、水田、泥土上。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来種と競合。生態系に影響(水面下を被陰)。 ②通水障害。船の通行や漁業妨害。
県内で特に予想される被害	県内の在来種との競合。通水障害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①栄養繁殖が極めて盛んである。 ②栽培されていたものの逸出。
3 対策	
ホテイアオイを見つけたら	家の池や水槽などで栽培していた場合は、排水路などにホテイアオイや水が流れないようにしましょう。流れ出しを防ぐことができない場合は、栽培しないようにしましょう。
見分け方	ホテイアオイは、高さ10～80cmの常緑多年生の浮遊性植物。葉は卵心形～円心形で葉柄はふくらんで浮き袋になる。花は淡紫色。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	暖地の湖沼、溜池、河川、水路、水田。
防除方法	冬季に越冬株の抜き取りによる防除。
防除の取組事例	海外では、ゾウムシやイガ類などの天敵の導入を行っている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80810.html 北海道ブルーリスト http://bluelist.ies.hro.or.jp/ Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 角野(2014)日本の水草. 文一総合出版. 東京